
東北芸術工科大学 紀要

BULLETIN OF TOHOKU UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

第25号 2018年3月

東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻の教育

Education of Graduate School of Arts and Culture, Tohoku University of Art and Design

深井 聡一郎 | FUKAI Soichiro

東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻の教育

Education of Graduate School of Arts and Culture, Tohoku University of Art and Design

深井 聡一郎 | FUKAI Soichiro

In this article, thinking about the future of Graduate School of Arts and Culture Major of the Tohoku University of Art and Design, through “reform of art and culture major” and “provision of field as an exit”..

Keywords:

大学院、TOHOKU CALLING、芸術文化専攻 graduate school, TOHOKU CALLING , Graduate School of Arts and Culture,

1. 大学院教育との関わり

私がこの大学に就くことが決まったのは、2011年の3月9日だった。その2日後東北は東日本大地震の被害を受けることになる。世の中では芸術を語ることを憚れ、私も幾度か非難を受けたこともあったが、私の考えはこんな時だからこそ芸術を語り、その未来を考えなくてはいけないというものだった。

私の考えを理解し学びを求める学生が卒業を迎える頃、大学院指導権を得て、晴れて深井ゼミが誕生することとなった。まず始めにやった事はゼミの理念の成立だった。

「歴史を学び、現在を知り、未来を想う。」

これは、私が現在芸術文化専攻長として担当する芸術文化専攻学生の必修講義「芸術文化原論」の方針としても取り入れた。

それぞれの研究、表現に関係する歴史を学ばなければ、自身の研究、表現の立ち位置を把握出来ない事から、まずは背景としての歴史研究を行う。次に自身の研究、表現が属する領域の現況をリサーチし、どう時代を生きる他者は何を研究、表現しているかを知る事。最後にそれらを踏まえ自身の研究、表現が未来にどうあるべきか想像する事。しいては、自身の領域の未来をどのように創造できるのか思索していくというものである。

ゼミからは少数ではあるがそういった学びの意義を理解する修了生を排出する中、2016年より、芸術文化専攻長という重圧を引き受けることとなった。前大学院改革会議メンバーが大きな改革を行い良い方向に向かっている最中であつたので、私が行った事は教育の更なる充実と方向性の偏りの一部修正くらいである。

そして様々な領域の学生が混在する芸術文化専攻であるが、私の教育方針は基本的にゼミのそれと変わらない。どんな領域にも背景となる歴史が存在し、その領域には現在があり、それを学んだ上で未来を創造する学生を育てるべきであるとの考えからである。

また、この理念は決して一つの未来への道へ導くものではなく、研究、表現する学生それぞれがその道を決定するためのものである。

ある者は東北の地域に起こる問題を解決する為に学びを見出し、ある者は日本を、またある者は世界を動かす為に学びを見出すのである。

我々は学生に道を示すのではない。道を見出す術を見せるべきであると考えます。

芸術文化専攻長としては各々が見定めた到達地点へ着地する手助けになるような場を提供できればと考えている。

2. 芸術文化専攻の改革

2016年度より以下の3点を中心に改革を行なっている。

1、「目指す人材」の育成、出口の確保。

優秀な「研究者、アーティスト」育成を目指し、本学の大学院の特色と言える大学院レビューのより一層の充実を図る為、芸術文化原論、アーティストマネジメントの講義内容、構成を充実させた。また、本学の大学院教育をアーツ千代田3331において「TOHOKU CALLING」と題しデザイン工学専攻と共に、研究展示と大学院レビューを再現した。今後様々な出口に繋がる試みを計画していきたい。

2、カリキュラム改革による領域越境型教育の充実

ディプロマポリシーに掲げた3つの要件、「歴史理解に基づく専門研究の追求」「論理的思考と批評的態度の獲得」「地域課題を解決するための研究をするという社会的態度の成」、これらを身につけた人材を育成するため、各領域の原論授業を領域の特質を生かした領域越境型の授業カリキュラムとして担当教員と話し合いを持ち設計し直した。

3、芸術総合領域の改革

芸術総合領域では、専門領域におさまらない領域越境型の研究を深める学生の受け皿として改革する。これは1領域に収まらない研究、表現を学ぶ学生を主担当、副担当の複数名体制で教育するものとする。

3. 出口としての場の提供

「TOHOKU CALLING」¹と題した本学大学院の教育を紹介する展示を:2017年9月19日~30日東京都千代田区の廃校を利用したアーツ千代田3331という文化複合施設で行った。この展示は優秀な修士、博士学生及び修了生を東京で紹介するだけでなく本学の大学院教育の魅力を他大学の学部生に伝える試みでもある。



写真1 アーツ千代田3331会場風景

同じような展示に卒業・終了制作展(東京展)があるが、どこまでが大学院生の作品か明確でないため、どちらかというと学部卒業制作の視覚状の底上げの色が強いように思う。

それとは別に大学院に特化した展示をと考え、芸術文化専攻だけでなく、研究系領域やデザイン工学専攻の論文やパネル展示なども並べ広範囲な展示とした。また通常キャプションといえばタイトル、制作年、素材・技法程度の情報を載せるところ、大学院レビューの際に提出させるレジюмеのようなスタイルとした事も本展が学術成果を発信する

一つの特徴であったと思う。

初日には研究科長三瀬夏之介、デザイン工学専攻長志村直愛と共に、本学の大学院教育について展示物を通して語るトークを開催し、最終日には出品者と教員による本学大学院の特色とも言える大学院レビュー形式のトークを開催した。本展は同様に本学ラウンジでも開催し、学内にもその学びの姿勢を伝える試みをした。



写真2 アーツ千代田3331会場風景

今後の展開としては、様々な学生の研究や制作に対して、その活動を後押しできるような場の提供ができればと現在いくつかの原案を考えている。



写真3 本学1階会場風景

註

1. 「TOHOKU CALLING」展示概要

会期1:2017年9月19日(火)～30日(土)

時間:12:00～19:00

会場:アーツ千代田3331 B104 ギャラリースペース

住所:〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14

入場:無料

Web:<http://www.3331.jp/>

会期2:2017年10月3日(火)～12日(木)

時間:9:00～21:00

会場:東北芸術工科大学本館ラウンジ

住所:〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5

入場:無料

Web:<http://www.tuad.ac.jp/>

出展作家

石原葉(芸術工学研究科博士後期課程 芸術工学専攻 日本画研究領域 博士課程 1年在籍)

守谷英一(芸術工学研究科博士後期課程 芸術工学専攻 歴史文化研究領域 博士課程 3年在籍)

浅野友理子(芸術文化専攻 洋画研究領域 修了)

金子拓(芸術文化専攻 洋画研究領域 修了)

田中望(芸術工学研究科博士後期課程 芸術工学専攻 日本画研究領域 博士課程 修了)

財田翔悟(芸術文化専攻 日本画研究領域 修了)

是恒さくら(デザイン工学専攻 地域デザイン研究領域 修了)

久松知子(芸術工学研究科博士後期課程 芸術工学専攻 日本画研究領域 博士課程 1年在籍)

田久保静香(芸術文化専攻 工芸研究領域 修了)

石川霞(芸術工学研究科博士後期課程 芸術工学専攻 彫刻研究領域 博士課程 修了)

鈴木美冬(芸術文化専攻 工芸研究領域 修士課程2年在籍)

関連イベント

オープニングトーク「Tohoku Calling」

三瀬夏之介(本学大学院研究科長)×深井聡一郎(本学大学院芸術文化専攻長)×志村直愛(本学大学院デザイン工学専攻長)

日時:2017年9月19日(火) 18:00～19:00

会場:アーツ千代田3331 B104 ギャラリースペース

対談「嗚呼東北が招んでいる…～僕たちが東北山形で建築デザインを学ぶ理由～」

馬場正尊(本学建築・環境デザイン学科教授)×志村直愛(本学大学院デザイン工学専攻長)

日時:2017年9月30日(土)18:00～19:00

会場:アーツ千代田3331 B104 ギャラリースペース

作品レビュー

守谷英一(歴史文化研究領域博士3年課程)×田口洋美(本学歴史遺産学科教授)

田久保静香(工芸研究領域修士)×深井聡一郎(本学大学院芸術文化専攻長)

是恒さくら(地域デザイン研究領域修士)×三瀬夏之介(本学大学院研究科長)

日時:2017年9月30日(土)17:00～18:00(各20分)

会場:アーツ千代田3331 B104 ギャラリースペース